

## 森美術館

## 「レアンドロ・エルリッヒ展：見ることのリアル」同時開催プログラムのご案内

会期：2017年11月18日(土)－2018年4月1日(日) 会場：森美術館(六本木ヒルズ 森タワー53階)



MAMコレクションは、森美術館の収蔵品を、多様なテーマに沿って順次紹介する展覧会シリーズです。

## MAMコレクション006:

## 物質と境界ーハンディウィルマン・サブトラ＋千葉正也

出展作家：ハンディウィルマン・サブトラ(1975年生まれ)

千葉正也(1980年生まれ)

企画：熊倉晴子(森美術館アシスタント・キュレーター)

ハンディウィルマン・サブトラ(1975年、インドネシアの西スマトラ州生まれ)と千葉正也(1980年、神奈川県生まれ)を紹介します。ふたりのアーティストは、彫刻と絵画を中心に様々な手法や素材を用いて制作を行っており、本展では、それぞれの持つ物質、素材、環境、境界に対する視線や態度の違いと共通点に着目します。

サブトラは、1998年のインドネシアにおける民主化の動きに呼応するような社会的、政治的な現代美術の潮流から距離をとり、作品がいかなるステートメントをも伝えるものではなく、ただそこに存在する物質であり、いかなる意義や目的にもとらわれないことを表明しています。本展にて展示する《根もなく、つぼみもないNo.12》は、ゴムで縛られた柔らかい袋状のものにも見え、巨大な植物の種子のように見えるかもしれません。しかしサブトラはそうした答えや意味を明示せず、観客ひとりひとりに感じ方やその解釈を委ねます。一方千葉は、自作の彫刻を含めた奇妙で不可思議な環境を実際にスタジオなどに構築し、それを絵画のモチーフとする手法で知られています。本展にて展示される《2013年のパワフルヤングボーイ》は、千葉が長年惹きつけられていた岩手県遠野市の「さすらい地蔵」を実際に訪ね、制作した作品です。当時のスケッチやメモ、絵画作品の詳細な計画を記したドローイングも初公開となります。



ハンディウィルマン・サブトラ 《根もなく、つぼみもないNo.12》  
2011年  
樹脂にアクリル、ポリウタレン塗料仕上げ、ガルバニ板、縫糸  
150x150x150 cm



千葉正也 《2013年のパワフルヤングボーイ》  
2013年  
油彩、キャンバス 274x225 cm (2点組)  
画像提供：シュウゴアーツ、東京

## プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、成田

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum  
〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

※最新のプレス画像は、<https://press.mori.art.museum/jp/press-img/>より申請、ダウンロードいただけます。

MAM  
SCREEN

MAMスクリーンは、世界の多様な映像作品のなかから選りすぐりの  
シングル・チャンネル作品を上映するプログラムです。

## MAMスクリーン007: 山本 篤

企画：徳山拓一（森美術館アソシエイト・キュレーター）

山本篤（1980年生まれ）は、ドキュメンタリー作品からフィクションや実験的なコントのような作品まで、これまで174本ののぼる映像作品を制作してきました。

ニュータウンなどの都市郊外の匿名的なロケーションを舞台とし、作家自身が暇を持て余した若者や非正規労働者などを演じる作品が多く、それらは東京近郊の一般家庭で育った山本の出自にも関係しています。一方で、最新作《過去と未来は、現在の中に》（2016年 HDビデオ 46分）は、妻の妊娠中に山本自身が昔の恋人を訪ねることで、「過去、現在、未来」と向き合うという極私的なドキュメンタリー作品です。どちらの作品にも描かれているのは、目の前の現実と向き合おうとする山本の真摯な姿です。本展では初期の短編作品と近年の長編作品を合わせた上映プログラムを組み、山本の映像の多彩な魅力に迫ります。



（左）  
《過去と未来は、現在の中に》  
2016年  
HDビデオ 46分

（右）  
《2dogs》  
2010年  
ビデオ 2分51秒

### 上映作品

1. 《過去と未来は、現在の中に》
2. 《2dogs》
3. 《青いおばけ》
4. 《8bitの現実世界》
5. 《不可能性の可能性について》
6. 《山を越える》
7. 《君に話したいことがある》
8. 《美しく燃える石》
9. 《晴れて、タイ》

2016年 33分00秒 \*  
2010年 3分00秒  
2010年 1分30秒  
2011年 2分30秒  
2008年 4分05秒  
2011年 2分40秒  
2011年 1分30秒  
2012年 3分20秒  
2013年 3分30秒

\* オリジナル作品は46分ありますが、上映作品は本展に合わせて作家自身が再編集したバージョンとなります。

※当プログラムは約55分で、下記の時間より上映を開始いたします。

10:00、11:00、12:00、13:00、14:00、15:00、16:00、  
17:00、18:00、19:00、20:00、21:00（火曜日 10:00、  
11:00、12:00、13:00、14:00、15:00、16:00）

※企画展・プログラム等実施のため、「MAMスクリーン」の上映のない時間帯があります。  
詳細は、森美術館ウェブサイトをご覧ください。

[www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum)

### 山本 篤

1980年、東京都生まれ、同地在住。多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。主な展覧会に、「2016」(Art Center Ongoing、2016年)、奥能登国際芸術祭(2017年)、「国立奥多摩映画館～森の叫び～」(2016年)、「Time Differences between Two Pictures」(モデルルーム、東京、2016年)、「ビデオアートプログラム 世界に開かれた映像という窓 第24回: 山本 篤」(広島市現代美術館、2012年)などがある。<http://atsushiyamamoto.com/>



山本 篤

### プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、成田

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: [pr@mori.art.museum](mailto:pr@mori.art.museum) Web: [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum)  
〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

※最新のプレス画像は、<https://press.mori.art.museum/jp/press-img/>より申請、ダウンロードいただけます。



MAMプロジェクトは森美術館が世界各地のアーティストと  
実験的なプロジェクトを行うシリーズです。

## MAMプロジェクト024：デイン・ミッチェル

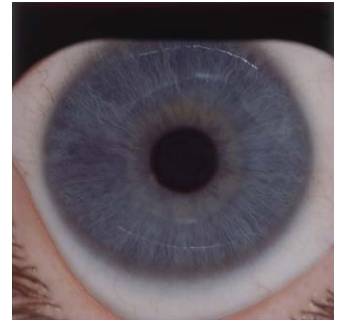
**企画：**片岡真実(森美術館チーフ・キュレーター)、ザラ・スタンホープ(元オークランド・アート・ギャラリー主任キュレーター)

**共同コミッション：**森美術館、オークランド・アート・ギャラリー(ニュージーランド)

**助成：**クリエイティブ・ニュージーランド

**制作協力：**香老舗 松栄堂、高砂香料工業株式会社

デイン・ミッチェル(1976年生まれ)は、不可視の領域におけるエネルギーや力学について、芸術的、科学的、歴史的な観点から多様なリサーチを行っています。そこでは視覚と嗅覚の関係性がしばしば意識されますが、不可視の領域や記憶の古層にわれわれの意識を誘う「香り」を、彼は重要な“彫刻的素材”として捉えています。本展では、伝統的な香の世界から香料の最新技術まで、日本滞在中の多角的なリサーチから生まれた新作《アイリス、アイリス、アイリス》を発表します。「アイリス(Iris)」という単語が、アヤメ属の植物、眼球の虹彩、カメラの絞り部分、ギリシャ神話の虹の女神イリスなどさまざまな意味を持つこと、線香が時計としての機能も担っていたこと、長年使われた道具などに付喪神<sup>つくもがみ</sup>が宿ることなど、多岐にわたる彼の関心がひとつのインスタレーションにまとめられます。日本の歴史や文化としての香りと、科学的な分子としての香りの双方が、私たちの認識や諸感覚に新たな刺激を与えてくれることでしょう。



(上)《アイリス、アイリス、アイリス(習作)》2017年 インクジェット・プリント 50x50 cm  
(下)《アイリス、アイリス、アイリス(部分)》2017年 デジタル・プリント、ハボタイ・シルク 130x140 cm  
Courtesy: Hopkinson Mossman, Auckland & Christopher Grimes, Los Angeles

### デイン・ミッチェル

1976年、ニュージーランド、オークランド市生まれ。2012年にオークランド工科大学にて哲学系修士号を取得。2009年から2010年は、ドイツ学術交流会(DAAD)の奨学金を受けてベルリン在住。シドニー・ビエンナーレ(2016年)、光州ビエンナーレ(2012年)、リバプール・ビエンナーレ(2012年)、シンガポール・ビエンナーレ(2011年)など数々の国際展に参加する傍ら、世界各地で個展を開催。オークランド在住。第58回ベネチア・ビエンナーレ(2019年)ニュージーランド代表。



デイン・ミッチェル  
撮影: Babiche Martens

### ❓ 展覧会関連プログラム

#### ■トークセッション「見えざるものを語る」 ※日英同時通訳付

本プログラムでは、京都の香老舗 松栄堂 12代当主の畑正高氏が日本の香りに関わる歴史や文化を語った後、デイン・ミッチェルによるアーティストトーク、そして二人の対談を通して、「見えない世界」の奥深さを体験します。

**出演：**デイン・ミッチェル(アーティスト)、畑 正高(香老舗 松栄堂 主人)

**モデレーター：**片岡真実(森美術館チーフ・キュレーター)

**日時：**2017年11月19日(日) 15:00-16:30(開場:14:30) **会場：**森美術館オーディトリウム

**定員：**80 **料金：**無料(要森美術館の展覧会チケット) **お申し込み：**森美術館ウェブサイト



畑 正高

\*出演者は予告なく変更になる場合があります。予めご了承ください。

プログラムに関するお問い合わせ：森美術館 ラーニング

Tel: 03-6406-6101(月~金:11:00-17:00) Fax: 03-6406-9351 E-mail: mam-learning@mori.co.jp

### プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、成田

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum  
〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

※最新のプレス画像は、<https://press.mori.art.museum/jp/press-img/>より申請、ダウンロードいただけます。